

瑞応の盆踊り 100人優雅に

県事業で学生・職員参加 佐川町



県内の学生らが協力し、優雅な踊りが披露された「瑞応の盆踊り」(佐川町瑞応の瑞応寺)

【佐川】450年以上の伝統があるといわれる佐川町瑞応地区の「瑞応の盆踊り」が16日夜、地区内の瑞応寺で人も参加。子どもから大人

までの約100人が優雅な踊りを披露した。

1566年に鎮魂と五穀豊穡を願い始まったとされ、県の無形民俗文化財に指定されている。現在は地元保存会が伝承に努めている。

保存会などによると、地区住民は30年前の114人から55人に減った。とりわけ若年層の担い手確保が難しくなってきた中、祭りの準備や演舞を担う人材を地区に派遣する県の事業を活用した。

派遣された学生らは7月下旬から地区に通い、住民から盆踊りの歴史や踊りを学んだほか、花台に飾るペーパーフラワーを制作。当日はばんぼりを設置するなど住民と汗を流した。

本番は高知大学と高知県立大の学生が1人ずつと、県職員4人が参加。午後7時ごろから約1時間半、「コリヤセ」「万才」などの5演目を朗々と響く生歌や太鼓に合わせて踊った。

法被に身を包み、腕を振った県立大2年の中田小次郎さん(19)は「地域の人が盆踊りをいかに大切にしていくかが分かった。『地域の力になれる』との実感が、やりがいにつながる」と手応えを感じた様子。

保存会会長の細木一正さん(70)は「若い人が来て頑張ってくれると住民の活力にもなる。今後も学生たちを受け入れ、一緒に盆踊りを盛り上げていきたい」と話していた。

(乙井康弘)